

# 椎津川水系における今後の河川整備の方向性

## 椎津川の現況特性

### 治水

- 上流域（片又木川合流点より上流）における、河道の流下能力不足による浸水被害の頻発。

### 利水

- 全川にわたり河川水の利用（水利権）はない。

### 環境

#### 【景観】

- 周辺の閑静な住宅街や水田風景と支川の里山風景と調和した河川景観となっている。

#### 【動植物】

- タイリクバラタナゴ、モツゴ、マハゼ、トウヨシノボリなどが確認されている。（貴重種：モツゴ（注目種））
- その他に、カササギやアサギなどの鳥類、モグラやネズミなどのほ乳類、ヤドリやアマガエルなどの両生・は虫類が確認されており、これらの動物の生息環境として、水辺の植生が重要な役割を果たしている。

#### 【水質】

- 下水道の整備等により水質は良化傾向にあり、近年は環境基準値（B 類型）を満足している。

#### 【空間利用】

- 河川環境学習における利用：河川管理者と地元小学校が一体となった川づくり

## 流域・地域特性

- 流域の市街化率は現況で約 36%であり、特に下流部に資産が集中している。
- 高度成長期における流域の団地開発により、上流からの洪水流出が増大している。

## 学識経験者・地元代表の意見

（第 1 回委員会における意見）

- 洪水の安全な流下（河川改修、避難情報の適切な提供）
- 沿川、流域も含めた自然環境の保全
- 水際へのアクセスの向上（緩傾斜、階段工など）
- 昔に比べて親水利用が希薄になった
- ゴミ拾い、草刈り等の維持管理体制、施設整備
- 河川に対する意識の啓発が必要
- 地域と行政が一体となった維持管理計画の策定

## 流域住民からの要望

- 懇談会以外にも、住民説明会の開催等により、整備内容の説明をお願いしたい。

## 河川整備の方向性

### ① 治水

- 河道拡幅・河床掘削による流下能力の向上
- 河道、河川管理施設等の機能の保持

### ② 自然環境

- 周辺の風景と調和した原風景の維持・形成
- 自然のなかれを活かした河川形状の保全と復元
- 水域と陸域の連続した生物生息環境の創出

### ③ 親水利用

- 川に近づきやすい緩傾斜河岸、階段工整備
- 親水利用促進のためのしくみづくり

### ④ 維持管理

- 地域と行政が一体となったゴミ掃除、除草など

### ⑤ 住民協働

- 地域と行政が一体となったゴミ掃除、除草など（アダプト制度の活用）

### ⑥ 啓発・広報

- 緊急時の情報提供（洪水ハザードマップ等）
- 河川利用者のマナーの向上
- 行政と住民相互のネットワーク